

横倉山の哺乳類

谷地森秀二

(四国自然史科学研究センター・横倉山自然の森博物館)

四国自然史科学研究センターは、横倉山自然の森博物館と協力して、越知中学生と一緒に越知町の哺乳動物調査を2005年度に行いました。調査では、自動撮影調査、巣箱調査、ネズミ・モグラ捕獲調査を実施し、その結果、越知町には18種(イエネコを含むと、19種)の哺乳類がいることがわかりました。この時に見つかった種は、ほとんどが森林に暮らす動物で、四国の広い範囲で見つがっているものばかりでした。

その後、引き続き越知中学生と総合学習の時間に行った調査活動と、四国自然史科学研究センターが行った独自調査によって、さらに多くの哺乳動物が越知町には生息していることがわかりました(右表参照)。

2019年4月より、横倉山生物総合調査の一環で哺乳類調査を行っています。本発表では、本調査で新たに生息が確認された種、既に生息が確認されていましたが本調査によってえられた興味深い情報を紹介します。

話題1. ニホンモモンガをあちこちで確認!

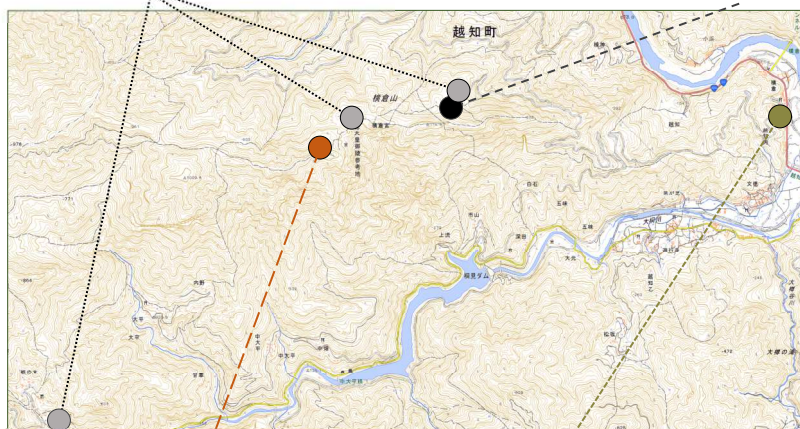
話題2. モリアブラコウモリ捕獲!

話題3. 横倉山にニホンジカがやってきた!

話題4. 博物館の水庭に来る動物たち。

話題1. ニホンモモンガをあちこちで確認!

四国自然史科学研究センターが横倉山第三駐車場近くの林内に設置した巣箱に向けた自動撮影装置で、2016年9月20日に横倉山での初記録となるニホンモモンガが撮影されました。本調査でも同様の調査を行った結果、栃ノ木集落で2019年5月5日、横倉山の陵墓参考地周辺で2020年6月17日にそれぞれ確認されました。また、2019年度と2020年度には杉原神社でムササビ撮影を行っていた本調査メンバーが、神社周辺のスギ林内でニホンモモンガを撮影しました。なお、博物館のまわりでもニホンモモンガと思われる動物(ムササビよりも明らかに小型)が、夜間に木から木へ飛翔した姿を目撃しています。



話題3. 横倉山にニホンジカがやってきた!

2005年度の調査の時には、オスジカが片岡地区で一度目撃されたのですが、他には情報は得られませんでした。おそらく2005年度の頃は、越知町にニホンジカはほとんどいなかったと思います。その後、2013年くらいから桐見川地区でニホンジカが見つかるようになり、2018年12月には自動撮影調査によって横倉山の「空池」で撮影されました。高知県は2019年9月に、空池を防鹿ネットで囲み、希少な植物がニホンジカに食べられないようにしました。博物館では、防鹿ネットのまわりに自動撮影装置を設置して、ニホンジカが空池周辺でどの時期に暮らしているのかを調べています。今後のニホンジカの動向は、たいへん気になる問題です。

2018年度までに越知町で確認された哺乳類

目 and 名	科 and 名	種 and 名	確認した種	
トガリネズミ形目	トガリネズミ科	ニホンジネズミ	●	
	モグラ科	ヒミズ	●	
		コウベモグラ	○	
翼手目	キクガシラコウモリ科	キクガシラコウモリ	●	
		コキクガシラコウモリ	●	
	ヒナコウモリ科	アブラコウモリ	○	
		モモジロコウモリ	○	
		コテングコウモリ	※	
		ユビナガコウモリ	○	
霊長目	オナガザル科	ニホンザル	●	
齧歯目	ネズミ科	カヤネズミ	●	
		アカネズミ	●	
		ヒメネズミ	●	
			ドブネズミ	○
			クマネズミ	○
	リス科		ハツカネズミ	○
			ニホンリス	●
			ムササビ	●
			ニホンモモンガ	○
	兔形目	ウサギ科	ニホンノウサギ	●
食肉目	ネコ科	イエネコ	●	
	ジャコウネコ科	ハクビシン	●	
	イヌ科	アカギツネ	●	
		タヌキ	●	
		テン	●	
		アナグマ	●	
偶蹄目	シカ科	ニホンジカ	●	
	イノシシ科	イノシシ	●	

●:2005年度に越知中学生と一緒にに行った調査で確認された種。

○:2006年~2018年度の調査で、新たに生息が確認された種。

※:コテングコウモリは、2003年度に四国自然史科学研究センターの調査によって確認。

話題2. モリアブラコウモリ捕獲!

2019年6月17日から18日にかけてハーブトラップによるコウモリ捕獲調査を行った結果、高知県内ではこれまで津野町の天狗高原でしか見つけていなかったモリアブラコウモリを捕獲することができました。このコウモリは、四国内では高知県の他に愛媛県と徳島県で見つっていますが、いずれも高い山の上(標高1310~1430m)のブナやミズナラなどの落葉広葉樹林での記録です。しかし、今回モリアブラコウモリが捕まった場所はシイやカシなどの常緑広葉樹林内で、標高は591mでした。モリアブラコウモリは、全国的に情報が少なく、まだわからないことが多いコウモリです。この記録は、本種の生活を知る新たな手掛かりになりそうです。



話題4. 博物館の水庭に来る動物たち。

安藤建築の特徴の一つである「水庭」。ここに水を飲みに来てくる生きものを調べるために、水際に自動撮影装置を設置しています。これまでに最も多く撮影されたのはタヌキで、単独の成獣、雌雄と思われる2頭連れ、当歳と思われる若い個体などさまざまです。これらのタヌキが入れ代わり立ち代わり水辺にやって来て、水を飲んだり、ツチガエルを襲ったりする様子が撮影されました。タヌキに比べると他の種が撮影される機会は少ないのですが、タヌキの他にはニホンアナグマ、ニホンテン、ハクビシン、イエネコが撮影されました。また、種の確定はできていませんが、おそらくアカネズミと思われる野ネズミが撮影されました。